

2023
JANUARY

No.35

鹿児島大学 同窓会連合会報

工学部を空撮



特別
寄稿

卒業してから55年 われらが「三八楠法会」
坪地 宏昌（文理学部社会学科法学専攻 昭和42年卒）

先達に導かれ

園田 善孝（教育学部 昭和42年卒業）

鹿児島大学同窓会連合会

鹿児島大学同窓会連合会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、鹿児島大学同窓会連合会と称する。

(目的)

第2条 本会は、鹿児島大学の各学部同窓会（以下「各学部同窓会」という。）の連合組織として、鹿児島大学の基本理念の達成に協力し、その発展に寄与するとともに、会員相互の交流及び親睦を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 鹿児島大学との連携及び協力
- (2) 各学部同窓会間の交流及び連携の推進
- (3) その他本会の目的に沿った事業活動

(支部)

第4条 本会に支部を置くことができる。

第2章 会員

(会員)

第5条 本会は、次に掲げる各学部同窓会及び特別会員を持って組織する。

各学部同窓会

- 鹿児島大学法文学部同窓会
- 鹿児島大学教育学部同窓会
- 鹿児島大学理学部同窓会南明会
- 鹿児島大学医学部同窓会
- 鹿児島大学歯学部同窓会
- 鹿児島大学工学部同窓会
- 鹿児島大学農学部あらた同窓会
- 鹿児島大学水産学部同窓会魚水会
- 鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

特別会員

- 鹿児島七高同窓会

第3章 役員等

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 各学部同窓会からそれぞれ1名
- (3) 代表幹事 1名
- (4) 幹事 各学部同窓会及び鹿児島大学からそれぞれ1名
- (5) 評議員 各学部同窓会からそれぞれ4名
- (6) 監事 若干名
- (7) その他会長が認めた者

(役員を選任)

第7条 会長、代表幹事及び監事は、総会において選任する。

(役員の仕事)

- 第8条 会長は本会を代表して会務を総理する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。
 - 3 代表幹事は会務の執行を総括し、事務局を統括する。
 - 4 幹事は本会と学部別同窓会との連絡調整を図るとともに、役員会及び幹事会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。
 - 5 評議員は総会の構成員として、重要事項を審議する。
 - 6 監事は業務及び会計の執行状況の監査を行う。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員が生じた場合の補欠の役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(名誉会長及び顧問)

第10条 本会に、名誉会長及び顧問を置くことができる。

- 2 名誉会長及び顧問は、会長が委嘱する。
- 3 名誉会長及び顧問は、総会に出席し、意見を述べることができる。

第4章 会議

(会議)

第11条 本会の会議は、総会、役員会及び幹事会とする。

(総会)

第12条 総会は、第6条各号に掲げる役員をもって組織する。

- 2 総会は、次に掲げる事項を審議、決定する。
 - (1) 役員を選任に関する事項
 - (2) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (3) 予算及び決算に関する事項
 - (4) 会則の改廃に関する事項
 - (5) その他会長が必要と認めた事項
- 3 総会は、毎年度1回、会長が招集し、その議長となる。
- 4 総会は、第1項に規定する役員の過半数の出席により成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員会)

第13条 役員会は、会長、副会長、代表幹事、幹事及び監事をもって組織する。

- 2 役員会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) 総会に付議すべき事項
 - (2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

(幹事会)

第14条 幹事会は、会長、代表幹事及び幹事をもって組織する。

- 2 幹事会は、総会又は役員会において決定した業務の具体的執行計画等を審議する。

第5章 会計

(経費)

第15条 本会の経費は、学部別同窓会の分担金、寄附金等をもって充てる。

(会計年度)

第16条 本会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

(監査)

第17条 会長は、会計年度ごとに決算書を作成し、監事の監査を受けなければならない。

第6章 事務局等

第18条 本会に、その事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、鹿児島大学総務部総務課内に置く。

(雑則)

第19条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この会則は、平成17年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成19年4月6日から施行する。

附 則

この会則は、平成30年4月7日から施行する。

附 則

この会則は、平成31年4月6日から施行する。

第35号会報(令和5年1月発行)に寄せて

同窓会連合会 会長 富永 茂人



鹿児島大学9学部9研究科を卒業・修了された11万人以上のOB、OGの皆様、お元気にお過ごしのことと存じます。「新型コロナウイルス感染症」パンデミックから3年目に入りました。2022年10月現在、ワクチン接種効果や感染メカニズムに基づく対策などにより新規感染者数もかなり減少しましたが、日常生活を送るためには予防的行動が重要であると言われております。皆様におかれましてもそれぞれの国、地域および職場において、新しい生活様式に対応して益々ご活躍くださいますようお願い申し上げます。

このコロナ禍の中、各学部同窓会とも「新型コロナウイルス感染」のリスクを下げるために「先輩、後輩および同窓生の絆を深めることを目的とした各種懇親会」を縮小・中止する、会議は書面やリモートで行うなど「コロナ禍」前には無かった工夫をしながら同窓会活動を行っておられると聞いております。これらには多大なエネルギーを必要とし、同窓会活動を前進させるための大きなネックになっています。同窓会連合会としても、毎年入学式直後の土曜日に開催していた「総会」と「懇親会(卒業生の集い)」のうち、「総会」は2020年および2021年の2回、「懇親会(卒業生の集い)」は今年(2022年)も含めて3回中止いたしました。2022年度総会は感染対策を十分行った上で例年より随分遅い7月に母校の教室を借用して開催いたしました。現在は、2023(令和5)年度総会および懇親会を「コロナ禍」前のように開催する方向(新型コロナウイルス感染状況に臨機応変に対応する前提)で幹事会、役員会において具体策を検討中です。「懇親会(卒業生の集い)」が予定どおり開催できるようになりましたら奮ってご参加ください。同窓会連合会活動につきましてはHP(<https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/>)に適宜掲載いたしますので是非ご覧ください。併せて、同窓会連合会本来の活動を鹿児島大学執行部と連携・協力しながら、徐々にではありますが再開して行きたいと考えております。卒業生・修了生の全会員のご協力をお願いいたします。

最後に、鹿児島大学の偉大な先輩である稲盛和夫鹿児島大学名誉博士が2022年8月24日に享年90歳で逝去されました。これまで、鹿児島大学を心から愛し、物心両面から支えていただくなど鹿児島大学の卒業生や学生に誇りと希望を与えていただきました。ご生前の多大なるご厚情に深く感謝いたします。心からご冥福をお祈りいたします。

目 次

第35号会報(令和5年1月発行)に寄せて	1
学長挨拶	2
鹿児島大学の近況	3
各学部同窓会活動報告	9
特別寄稿(法文学部、教育学部)	18

学 長 挨 拶

鹿児島大学長 佐野 輝



国際情勢不穏な中、そしてまた、長く続くコロナ禍の中、鹿児島大学同窓会連合会の皆様方におかれましては、お元気でお過ごしでしょうか。

ロシアのウクライナ侵攻に関しては、エネルギー価格や食料品などの物価高騰など我々の生活にも直接関わる大きな問題となるようになっていきました。さらには中国・台湾の緊張問題などは、ここ鹿児島の地にも安全保障をめぐって奄美や馬毛島の自衛隊や基地の進出、鹿屋での米軍無人機の配備など身近な問題となってまいりました。このような時節だからこそ、現在の日本における平和な日常の大切さや有り難さが身に沁みます。

さて、話は変わりました、昨年6月23日開催の第94回学長選考・監察会議において、現学長を務める私・佐野輝が次期学長候補者に選考され、さらなる2年間(令和5年4月1日～令和7年3月31日)の再任が決定いたしました。現任期中には、過剰に高い人件費率による財政的危機に対する対処やコロナ禍への対応で振り回される中においても改革を懸命に進めてまいりました。今後は、「鹿児島大学が、進取の気風にあふれ、南九州から世界に羽ばたく「グローバル教育研究拠点」となるよう持続性を有する改革にあたり、教育研究環境の充実・強化を図ります」との所信を持って、継続的な課題やさまざまな新たな課題に対しての取組を実のなるよう進めて参りたいと考えております。執行部及び部局長の皆様をはじめとした構成員が一丸となりまして、新たに令和4年度から始まりました第4期中期目標に向けた取組を着実に進めたいと思いますので、同窓会連合会の皆様にも今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

昨年8月24日に、京セラ名誉会長、本学卒業生として偉大な先輩であられた稲盛和夫名誉博士が、京都市のご自宅で90歳で逝去されました。心より哀悼の意を表したく存じます。稲盛和夫名誉博士には、鹿大を心から愛していただきました。鹿大の基本理念の中核である「進取の精神」のシンボリック的存在であり、南九州から世界に羽ばたかれた偉大な先輩に報いるためにも構成員一丸となって精進しなければと、改めて思います。

本学「進取の気風広場」にある稲盛氏の立像銘板銘文の氏の言葉を、感謝を込めて口ずさんでみたいと思います。この大きな喪失感を乗り越えて、氏のご支援により行っている冠事業を礎に、本学の再生・発展に繋げていきたいと思ひます。

どんな逆境に遭遇しようとも
どれほど厳しい環境に置かれようとも
挫けることなく
常に明るい希望を持ち
地道な努力を一步一步たゆまず続けていくならば
自分が思い描いた夢は
必ず実現する

(稲盛名誉博士立像銘板銘文)

鹿児島大学の近況

－進取の気風あふれる総合大学－

(2022年5月から2022年10月までのトピックス)

○【医学部】専門職連携ヘルスアセスメント教育のためのDVD教材を開発（5月19日）

医学部保健学科では、チーム医療実習の教材として作成した「バーチャル家庭訪問教材」を他大学等でも広く活用していただけるよう、専門職連携ヘルスアセスメント教育のための教材として開発し、2022年2月にDVDを発刊しました。

同学科では、4年次にへき地・離島を含めた地域医療機関で看護学専攻・理学療法学専攻・作業療法学専攻の合同によるチーム医療実習を行ってきましたが、2020年度以降、コロナ禍の影響により従来行ってきた実習が実施困難な状況となりました。そのような状況の下、動画を教材として実習を行うことができるよう、三島村のご協力を頂き、離島に居住する高齢者宅への家庭訪問を動画にしたものが「バーチャル家庭訪問教材」です。

<本DVD教材の特色>

本教材は、三島村に居住の高齢者宅を看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻の教員が訪問し、各専攻の専門性を考慮した視点から聴取した情報や健康関連情報を含む動画教材です。バーチャル家庭訪問から得られた情報を基に専門職の視点から対象者の在宅ヘルスケアに関するアセスメント（評価）を行い、各専門職の立場からの支援のあり方や対象者のウェルネスについてチーム医療の視点でディスカッションをするための教材となります。

バーチャル家庭訪問教材は、米・韓の学生との合同のオンライン授業のために多言語化を行い、「大学の世界展開力強化事業」の教材としても活用されました。韓国語字幕版と英語字幕版があります。また、チーム医療実習で実際に用いた記録用紙はダウンロードできるようになっています。

<今後の展開>

今回発刊したDVDは、コロナ禍における専門職連携ヘルスアセスメントに関わる教材、離島における在宅ヘルスケアの教材として、広く活用されることを期待しています。また、多言語化（韓国語、英語）の教材としての活用も可能であり、国内外における島嶼へき地医療のチーム医療教育の発展に役立てていただきたいと考えています。

○県内初導入！「トビタテ！留学JAPAN」寄附型自動販売機を設置しました（5月25日）

今年度から、鹿児島大学の郡元キャンパスに「トビタテ！留学JAPAN」寄附型自動販売機を新しく設置しました。「トビタテ！留学JAPAN」は、意欲と能力ある全ての日本の若者が海外留学に自ら一歩を踏み出す機運を醸成することを目的として、文部科学省が2013年10月より推進しているキャンペーンです。

2014年からスタートした官民協働で取り組む海外留学支援制度である「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」では、2022年までの事業で約1万人の高校生、大学生を派遣留学生として送り出す計画であり、本学でも2022年5月現在で62人（うち5名はこれから渡航予定）がこの制度を利用し、留学をしています。

この寄附型自動販売機は売り上げの一部が同制度の奨学金として活用されるもので、アフターコロナを見据え、本学での学生達の留学への主体的な意識醸成を目的に、鹿児島県内で初めて設置されました。

○鹿児島大学OBゴルフ大会実行委員会より寄附をいただきました（6月3日）

6月2日、鹿児島大学OB・OGゴルフ大会実行委員会の岩元善巳委員長、田代博文副委員長が本学を訪れ、第41回OB・OGゴルフ大会の参加費の一部を賛助金として贈呈いただきました。同大会は4月17日に3年ぶりに開催され、本学の卒業生をはじめ223人が参加して行われました。

贈呈式では、岩元委員長から「これからの大学の発展のために役立てて欲しい」と挨拶があり、目録が手渡されました。本学越塩俊介理事（総務担当）からは、「卒業生の皆様からいただいた賛助金は、（本学の「進取の精神」支援基金に組み入れて）学生支援や国際交流、研究支援など、鹿児島大学の教育研究の推進と地域貢献活動の活性化のために大事に使わせていただきます。」と謝辞がありました。

○附属図書館桜ヶ丘分館リニューアルオープン式典を実施（7月1日）

6月30日、附属図書館桜ヶ丘分館リニューアルオープン式典を実施しました。

同館は昭和52年に建築され、医学・歯学・保健学を中心とした教育・研究・診療活動に必要な資料を備え、利用者の皆様へ学術情報を提供するとともに、情報ネットワークに対応した学習環境を提供し、地域医療を支える人材育成を支援してきました。築40年を迎えた現在では、建物自体の経年劣化が進んできたこと、また少人数グループでのアクティブ・ラーニングの推進が求められていることなどから、改修が行われる運びとなりました。

1階にはアクティブな空間として、ラーニングcommonsとグループ学習室を、2階には開架閲覧室の窓側に学修・閲覧用カウンターを、3階にはセミナールームを整備し、個人やグループでの多様な学びのスタイルに対応できる

ようになりました。加えて、エレベーターやスロープの新設によりバリアフリーが図られ、省エネ機器の採用による維持管理コストの低減にも配慮しました。

式典の中で、佐野輝学長は「生まれ変わった桜ヶ丘分館が、地域社会の要請に応えうる研究者や高度専門職者、良き医療人を育成し、医学・医療の発展ならびに地域包括医療の向上に寄与していく場となってほしい。」と挨拶をしました。井戸章雄医歯学総合研究科長による桜ヶ丘地区代表挨拶の後、学生を代表し、石原田百恵里さん（医学部医学科5年）、吉永莉音さん（歯学部2年）の2名が挨拶をしました。石原田さんは「大学生の学修は、一人で自学自習するだけでなく、同級生と共に知識を深め合いながら学修することが大切だと痛感している。桜ヶ丘分館がアクティブラーニングの場となることに期待している。」、吉永さんは「歯学部の講義では、グループ活動の機会が多くある。桜ヶ丘分館の素晴らしい設備を最大限活用したい。」と学修への思いや意気込みを話しました。

続いて、岩井久理事（企画・社会連携担当）による謝辞の後、テープカットを行いました。

新しい桜ヶ丘分館が、学生らの積極的な学びへと繋がり、医歯学教育のさらなる発展に寄与することが期待されます。

○産学連携活動の業績が評価され、産学連携学会業績賞を受賞（7月15日）

南九州・南西諸島域イノベーションセンターの藤枝繁センター長は、2022年度産学連携学会業績賞を受賞しました。この賞は、他のモデルとなるような先端的な産学連携活動を行い、業績を上げた個人および団体へ授与される賞です。

今回の評価の対象となったのは、「地域に眠る潜在的課題「マイクロニーズ」を起点としたイノベーションの創出」事業。マイクロニーズとは、地域の人々にとっては自然で当然な事象であり、課題として認識されていなかったが、地域外の観察者により明確に課題として認識され、かつその解決過程でイノベーションが期待される潜在的課題のことです。同事業では、研究者が自らの研究成果を突き詰めていく「知の深化」、同センターが様々な手法を用いてマイクロニーズを発掘する「知の探索」を組み合わせ、新たなイノベーションへとつなげてきました。これは地域に限らず研究者にとっても、研究資金の獲得や新たな研究成果へと発展しやすくなるメリットがあり、実際に、2021年度末の南九州・南西諸島域における共同研究・受託研究の契約数は、2010年度から2015年度の平均の2倍以上へと増加する成果を上げました。

受賞を受け、藤枝センター長は「この受賞は、私個人ではなく、事業に携わったメンバー皆の成果。今後は集めてきたマイクロニーズを更に膨らませ、大きな花を咲かせていきたい。」とコメントしました。同センターでは、今後も大学の研究シーズを地域へと還元し、さらなるイノベーションの創出を目指すこととしています。

○【病院】鹿児島県から「基幹型認知症疾患医療センター」に指定されました（9月8日）

鹿児島大学病院は、鹿児島県から令和4年9月1日付けで、認知症疾患医療センター（基幹型）の指定を受け、同日より稼働を開始しました。

認知症疾患医療センターは、認知症の早期診断、早期対応のための体制の充実を図るため、国・県を挙げて整備が進められている機関で、基幹型、地域型、連携型に分類され、鹿児島県では、これまで9つの地域型と2つの連携型が稼働しています。

また、3つの分類の中でも基幹型は、全国で17ヶ所（令和4年3月時点）設置されており、各都道府県全域を活動圏域としています。県内唯一の基幹型である当センターは、県内の地域型や連携型を統括して認知症診療レベルの向上を目指すなど、県内の認知症医療の中心的役割を担うことが期待されています。

当センターでは、鹿児島県全体における認知症疾患の保健医療水準の向上を目的に、以下のような業務を行い、特に高度診断に力を入れていくこととしております。

- ・ より専門的な検査や判断を必要とする認知症の鑑別診断
- ・ 認知症に関する地域連携推進
- ・ 認知症に関する相談業務の実施

○同窓会連合会より寄附をいただきました（9月27日）

9月20日（火）、富永茂人同窓会連合会会長及び4学部同窓会会長が本学を訪れ、富永会長から佐野輝学長に、鹿大「進取の精神」支援基金への寄附の贈呈が行われました。

富永会長から「後輩のため、また、教育・研究の充実のために役立ててほしい。」とお言葉を添えていただき、佐野学長は「いただいた寄附金は、本学の教育研究のために有意義に使わせていただく。」と謝辞を述べました。

贈呈式後の懇談会では、佐野学長から鹿大「進取の精神」支援基金による事業実施報告や新たな事業の概要について説明を行いました。また、同窓会連合会と本学の今後の連携等について意見交換が行われ、有意義な時間となりました。

○【農学部】3大学による「第2回日本の酒シンポジウム」を開催（10月4日）

9月29日、鹿児島大学農学部附属焼酎・発酵学教育研究センターは、山梨大学ワイン科学研究センター、新潟大

学日本酒学センターとの3大学による「第2回 日本の酒シンポジウム」を鹿児島大学稲盛会館において開催し、オンラインを含め大学関係者や学生、一般の参加者ら約250名が参加しました。

それぞれの地域に根ざした酒類に関する教育研究を推進する3センターは令和3年9月に組織的な連携協定を締結し、同年11月には第1回目となる同シンポジウムを開催しました。今回、更なる連携強化を図るため第2回目となるシンポジウムを本学で開催したものです。

シンポジウムでは、佐野輝鹿児島大学学長から「3センターの連携が深まり、地域の酒に携わる多様な人材の育成と排出、延いては地域の活性化にさらに貢献されることを期待する」と、濱田雄一郎鹿児島県酒造組合会長からは「焼酎・日本酒・ワインの垣根を越えて日本の酒類の振興に取り組まれていることに敬意を表する」とそれぞれ挨拶がありました。続いて、鮫島吉廣鹿児島大学客員教授から「焼酎の国際化を考える」と題した特別講演があり、3大学からはそれぞれの活動の取組について報告がありました。また、3大学の学生らによるポスター発表もあり、多くの参加者が立ち止まって質問するなどの姿が見られ、有意義な時間となりました。

来年は山梨大学で開催する予定で、3大学は引き続き連携強化を目指していくこととしております。

○法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターを設立 記念式典と記者発表を開催（10月5日）

鹿児島大学は令和4年10月1日付で、法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターを設立しました。このセンターは、歴史・文化・自然環境などの貴重な地域資源を有する鹿児島の、特に近現代に焦点を当て、学際的な教育研究を推進するための機関です。近現代の歴史研究に軸足を置きながら、現代まで継承されている貴重な有形・無形の文化財の保護や、鹿児島の抱える諸課題の解決を目指す取り組みまで、幅広い活動を通して地域の活性化を目指します。

10月1日、センターの発足を記念し、総合教育研究棟で開所式、看板除幕式、センター内部の公開および記者発表を行いました。式には佐野輝学長、越塩俊介理事（総務担当）、岩井久理事（企画・社会連携担当）のほか、学内の部局長や来賓の松尾千歳尚古集成館館長など21名が出席し、新しいセンターの船出を祝いました。また記者発表では、学長の挨拶に続いて松田忠大法文学部長と丹羽謙治「鹿児島の近現代」教育研究センター長から、設立趣旨とセンター概要の説明がなされました。

センターは今後、鹿児島の近現代に関する重要な教育研究拠点となるべく、また鹿児島の活性化を目指して、様々な活動を展開していきます。

○【南九州セ】「第4回J-Innovation HUB 地域オープンイノベーション拠点選抜制度(地域貢献型)」拠点に選抜されました(10月12日)

10月4日、南九州・南西諸島域イノベーションセンターが経済産業省第4回「J-Innovation HUB 地域オープンイノベーション拠点選抜制度(地域貢献型)」拠点として選抜されました。

「J-Innovation HUB 地域オープンイノベーション拠点選抜制度」とは、大学等を中心とした地域イノベーション拠点の中で、企業ネットワークのハブとして活躍している産学連携拠点を評価・選抜することにより、信用力を高めるとともに支援を集中させ、トップ層の引き上げを促すものです。本事業では、経済産業省による伴走支援（①国内外への広報・拠点間の連携支援、②経済産業省の各種支援等との連携強化等）をいただきながら、当センターが、一次産業を基盤とする南九州・南西諸島域における収集・集約した潜在的な地域課題を、イノベーションの基礎となる本学知的財産の質向上と地域企業等の研究開発力強化に取り組むこととしています。

○教職員の受賞等

① 大学病院脳・神経センター脳神経内科の樋口雄二郎助教が2022年度「日本神経学会賞 学術研究部門」を受賞（6月1日）

○学生の表彰等

① UNIVAS AWARDS 2021-22で共同獣医学部の安城駿介さんがマン・オブ・ザ・イヤー優秀賞を受賞（6月8日）

② 第40回南日本女流美術展で教育学部の三角日南さんが南日本新聞社賞を、教育学部の藤谷百花さんが特選を受賞（6月8日）

③ アジア水産学会「第13回アジア漁業・養殖業国際フォーラム」で大学院農林水産学研究科の田中良磨さんがベストプレゼンテーション賞を受賞（7月13日）

④ CIEC 2022 PCカンファレンスで大学院理工学研究科の池本健太郎さんが最優秀論文賞を受賞（9月6日）

⑤ 日本魚類学会年会で大学院農林水産学研究科の森年エマ日向子さんが最優秀口頭発表賞を受賞（9月30日）

○海外の大学等からの学長表敬訪問

① 在福岡タイ王国総領事館のソールット・スックターウォン総領事一行（5月16日）

② 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館のマルティン・エバーツ総領事一行（6月21日）

③ ワシントン大学のアナ・マリ・カウス学長一行（10月19日）

〈以上、鹿児島大学ホームページから転載、引用〉

鹿児島大学の年次決算について、従前から、大学ホームページ上や官報公告で財務諸表を公表しておりましたが、昨今、学生・保護者・卒業生・地域住民・産業界等の各ステークホルダーに対して、より積極的な情報開示を求められていることを踏まえ、令和元年度決算分より、年次決算の概要を情報開示しております。

令和3年度決算について

国立大学法人鹿児島大学の令和3事業年度財務諸表が令和4年6月22日付けで文部科学大臣から承認を受けました。

国立大学法人は、国から負託された業務の実施に関して財務情報に基づく財政状態や運営状況に関する説明責任を果たすため、財務諸表を作成し公表することとされています。

財務諸表は、企業会計原則に基づきながら国立大学法人の主たる業務が教育研究であること、授業料等の学生納付金や附属病院収入等の業務特性があること等に配慮し固有の会計処理を定めた「国立大学法人会計基準」等に従い作成しております。

また「財務諸表の概説」では財務情報に加え、中期目標、運営体制（ガバナンス）、令和3年度成果・実績等の非財務情報についても記載し、本学の状況をより分かりやすく表記するものとなっております。

本学の令和3年度末における財政状態は、貸借対照表にありますように資産が1,450億円、負債が613億円、純資産が836億円となっております。また、本学の令和3年度における運営状況は、損益計算書にありますように経常収益が533億円、経常費用が519億円となり、臨時利益及び臨時損失を含めると11億円の当期総利益となります。（当期総利益は翌年度以降に多額の借入金に伴う病院経営等に使用していきます。）

本学を取り巻く財務状況は、法人化以降の運営費交付金の削減など大変厳しく、効果的かつ合理的な大学運営が強く求められております。

このような状況を踏まえ、本学は業務の効率化等による経費節減や自己収入等の増加を図るなど、より一層の財政基盤の強化を進めていくとともに、教育・研究・診療・社会貢献活動等の更なる充実・向上に努めて参ります。

今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人鹿児島大学

理事（財務・施設担当） 田頭 吉一

令和3年度 国立大学法人鹿児島大学 年次決算(概要)

貸借対照表 【期末時点の財政状態】		損益計算書 【一会計期間の運営状況】		決算報告書 【国の会計制度に準拠】	
資産	負債	経常費用	経常収益	収入予算	支出予算
145,037 (+2,740)	61,354 (+2,946)	51,966 (+1,505)	53,336 (+95)	57,856	56,330
	純資産	臨時損失	臨時利益		外部資金収支差
	83,683 (▲206)	745(+388)	301(+291)		588
	当期末処分利益 (内数)	当期総利益	繰越積立金取崩等		翌年度繰越等
	1,156	1,156 (▲1,277)	229(+229)		279
		利益の処分に関する書類 【未処理利益の処分内容】			目的積立金申請
		利益処分類	1,156		658
		うち積立金	(498)		
		うち目的積立金	(658)		

※単位は百万円です。(カッコ内は前年度増減)

※単位未満の端数処理の関係上、合計額等が合わない場合があります。

【主なピックアップ(カッコ内は前年度増減)】

令和3年度は中期目標期間最終年度であり、確保してきた財源で次期中期計画に向けた教育・研究・診療の環境整備への投資により、資産及び費用が前年度に対して増額しております。

- (資産) ・病院再開発計画に伴う整備等による機械装置・工具器具備品の増(+1,069百万円)
・外来診療棟・病棟(A棟)新営工事等による建設仮勘定の増(+2,227百万円)
- (負債) ・自己収入、施設費等による資産取得に伴う資産見返負債の増(+1,533百万円)
・中期目標期間最終年度の執行増に伴う3月納品分の未払金の増(+1,373百万円)
・病院再開発による借入金の増(+442百万円)
- (費用及び収益) ・中期目標期間最終年度の執行増に伴う研究経費の増(+282百万円)
・附属病院収益(+808百万円)に伴う減価償却費を含む診療経費の増(+1,035百万円)
- (臨時損失) ・第1期中期目標期間に誤計上した損益外減価償却累計額の更正等の増(+388百万円)
- (臨時利益) ・中期目標期間最終年度運営費交付金債務残高の収益化等の増(+291百万円)
- (損益等) 当期総利益 1,156百万円(▲1,277百万円(うち病院セグメント+632百万円))
目的積立金 658百万円(翌年度以降の教育、研究、診療の向上等に充てる予定)

財務情報の詳細については鹿児島大学ホームページにて確認願います。

【本学ホームページURL】<https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/zaimu.html>

お問い合わせ先: 財務部財務課決算係 (mail: kessan@kuas.kagoshima-u.ac.jp)

【鹿大「進取の精神」支援基金】

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーションの機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

基金の詳細情報については鹿児島大学ホームページにて確認願います。

【本学ホームページURL】<https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

お問い合わせ先: 総務部総務課広報・渉外室 (mail: s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp)

鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿大「進取の精神」支援基金は、地域活性化の中核的拠点の構築、世界に開かれた教育・研究拠点の形成を図るため、人材育成及びイノベーション機能の強化、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けて整備・充実を図ることを目的としております。

本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和3年度は、580件・243,660,427円のご寄附をいただきました。

＜寄附目的＞

○一般資金（学生の海外派遣や留学生支援、若手研究者の支援など、教育・研究・社会連携活動を幅広く支援）

学生海外派遣事業、大学の世界展開力強化事業、留学生受入推進事業などを実施しています。

○特定資金（特定の事業を支援）

・修学支援事業基金：経済的な理由により修学が困難な学生等に対して経済的支援を行い、勉学の意欲のある学生を支援します。

・学部等支援基金：歯学部基金、鹿児島大学病院基金、練習船基金、医学部医学科教育基金、教育学部附属学校園基金、動物病院基金、工学部教育研究支援基金



鹿大「進取の精神」支援基金 Web サイト ➡ <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>

リサイクル募金のご案内

鹿児島大学リサイクル募金とは、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が鹿児島大学に寄附される取り組みです。寄附金は、質の高い教育研究の推進及び地域貢献活動の一層の活性化に向けた整備・充実に役立てられます。

令和3年度は、111件・215,457円のご寄附をいただきました。



鹿児島大学リサイクル募金 Web サイト ➡ <https://lp.kishapon.com/kagoshima-u/>

遺贈によるご寄附のご案内

本学では、所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携銀行をご紹介します。提携銀行では、遺言書作成のご相談から遺言内容の執行まで、専門のスタッフがサポートいたします。

【提携銀行（五十音順）】

鹿児島銀行 営業統括部（信託チーム）／みずほ信託銀行 鹿児島支店／三井住友信託銀行 鹿児島支店



遺贈によるご寄附 Web サイト ➡ <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1353/izou.html>

税制上の優遇措置について

本学へのご寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

また、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学を寄附金税額控除の対象として指定している場合、個人住民税の税額控除が受けられます。

なお、相続税申告期限内に遺贈により本学にご寄附いただいた財産については、相続税はかかりません。



税制上の優遇措置 Web サイト ➡ <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/cat1352/zeisei.html>

お問い合わせ先

鹿児島大学総務部総務課 広報・渉外室 基金・渉外係

TEL 099-285-3101 / FAX 099-285-3854

E-mail s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

各学部同窓会活動報告

法文学部同窓会

1. 令和4年度法文学部同窓会理事会開催

令和4年10月14日(金)法文学部1号館2階202講義室で法文学部同窓会理事会が開催されました。令和4年度(第70回)法文学部同窓会総会については新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止とし理事会の決議を以て総会決議に代えることで承認されました。引き続き、令和3年度同窓会会務報告、収支決算、監査報告、令和4年度収支予算が承認されました。なお、今回は役員改選があり、仮屋基美会長が退任、今村敏治副会長が新しく会長に就任しました。新役員は以下のとおりです。

顧問 松田忠大(学部長)
会長 今村敏治(S45年卒)
副会長 成清次男(S51年卒) 灰床義博(S51年卒) 原口一陽(S58年卒)
常任理事 前田俊広(S53年卒) 場集田稔(S53年卒) 中山英人(S57年卒) 北崎浩嗣(S58年卒)
石塚孔信(S59年卒) 山元康弘(H元年卒) 山本一哉(H2年卒)

2. 令和4年3月末法文学部卒業生就職状況

民間企業61%、公務員39%の比率となりました。民間の就職先は情報通信業が最も多く、以下、小売業、その他専門・技術サービス業となっています。

就職地域別では、鹿児島県内44.5%、鹿児島県を除く九州・沖縄地区が33.3%で九州・沖縄地区が全体の77.8%を占めています。

学 科	公務員	民間	就職者数	就職希望者数	就職率
法経社会学科	77人	125人	202人	210人	96.2%
人文学科	46人	68人	114人	124人	91.9%
その他	1人	4人	5人	6人	83.3%
合 計	124人	197人	321人	340人	94.4%

3. 第19回鹿大北辰(文理・法文・理学部卒業生)ゴルフ会コンペ開催

令和4年10月15日(土)第19回鹿大北辰(文理・法文・理学部卒業生)ゴルフ会コンペが南国カンツリークラブで開催されました。

当日は快晴の中、37名の参加で先輩、後輩、和気あいあいと楽しくプレーができました。優勝及びベストグロスとは昭和45年法文学部経済学科卒の伊牟田均さんでした。

成績は以下のとおりです。

優勝	伊牟田 均(S45年、法文学部経済学科卒)	ネット	72.6
2位	成清 次男(S51年、法文学部法学科卒)	ネット	73.0
3位	堀之内康文(H9年、理学部卒)	ネット	73.6
4位	木場 晃(S41年、文理学部理学科卒)	ネット	74.8
5位	福田 和仁(H8年、法文学部経済学科卒)	ネット	74.8
ベストグロス	伊牟田 均(S45年、法文学部経済学科卒)	グロス	81

25周年を前にして

第7波のコロナ禍の中、総会・懇親会は今年も開催できなかったが、3年ぶりに対面による理事会を開催した。書面決議では見られない理事の笑顔や生の声に触れ、感慨もひとしおだった。

教育学部同窓会は来年度25周年を迎えるが、それを踏まえた同窓会活動やウィズコロナ・ポストコロナの時代を見据えた同窓会活動のあり方について議論できたことは有意義であった。

以下、本年度の同窓会活動の一端を報告したい。

○まごころアドバイス事業

教育学部に入学したものの、児童生徒の指導の難しさや勤務状況の厳しさなどを知り、教職への道を自ら閉ざす学生も少なからずいるという現状を聞き、学生が抱えている課題や疑問、不安や迷いなどについて、経験豊かなOB・OGが優しくアドバイスする事業を8月に実施した。

学生が教職への思いや意欲を高めていくよう後継者育成事業として今後も続けていきたい。



○教育学部同窓会の名称

他学部同窓会には会の名称があるが、教育学部同窓会には名称がない。来年度25周年を迎えるのを機に教育学部同窓会にも名称（愛称）をつけ、新しい名称を呼び合い仲間意識を深め、同窓会に対する親しみを増してもらいたいと思っている。

本年度は会の名称を会員から募集し、多数応募いただき、名称候補三つを役員会で選定した。来年度の総会に提案し、正式に決定する。

○教育学部ゴルフ大会

同窓会の最も楽しみの一つである懇親交流会がコロナのために3年連続中止となり、同窓としての意識付けをする機会が失われ残念である。そのため、コロナ禍にあっても幅広い年齢層の同窓生が参加し交流できるイベントを開催することを決め、会員のアンケート調査を参考にして「同窓会設立25周年記念教育学部ゴルフ大会」を開催する。（詳細は教育学部ホームページ参照）

【期日・場所】 令和5年10月28日（土）・南国カンツリークラブ

○ホームページのリニューアル

本年度9月、装いも新たにホームページをリニューアルした。今まで年1回会報を発行し、会員へ情報を提供していたが、これからは新しい情報を早く発信し、それを共有し、同窓会員の同窓会に対する関心を高めていきたい。多くの同窓会員のホームページ訪問を期待している。

（文責：教育学部同窓会長 東 寛治）

同窓会活動報告

理学部同窓会南明会

代表幹事 有馬 一成（平成3年卒）

11月11～12日、3年振りに学外者にも解放するかたちで鹿大祭が開催されました。この2日間、構内は大勢の人で賑わったことでしょう。私たちはこの後もしばらくはいろいろな不安を抱えながらの生活が続くことになると思われますが、学生の皆さんには思い出に残るキャンパスライフを送ってもらいたいと切に思います。

理学部同窓会の総会は2年に一度、鹿大祭が開催される週の土曜日に開催すると決められています。総会に出席する会員の皆さんに、現在の鹿児島大学を見てもらいたいという思いから、この時期に設定されたと聞き及んでいます。ですので、鹿大祭が近づくと同窓会のことを思い出すのが常なのですが、本総会も3年間開催されておりません。これまで総会は、決まって上荒田のジェイドガーデンパレス（旧 翠園）で開催されておりました。翠園は思い出が詰まった施設ではありましたが、コロナの影響でしょうか、この数年の間で建物はなくなり、マンションとコンビニに替わってしまいました。中華料理がとても美味しかっただけに極めて残念です。併せて、関東支部および関西支部も現在は活動や会合を見合わせている状況です。一日も早く通常の活動ができるように、準備だけは進めているところです。

思ったような活動がなかなかできておりませんが、報告出来る活動は以下の3つです。

1. 事務局室を確保

永年、部局に要求を続けて参りました同窓会の事務局室を、理学部1号館3階（#336）に確保することができました。お陰様で、事務作業や業者さんとの打ち合わせなどに利用させていただいています。将来的には専属の事務担当者を配置し、卒業生が気軽に訪ねてもらえる場所として活用していけたらと考えています。事務局室の確保に当たっては、同窓会連合会の会長を始め、各同窓会の役員の皆様からご助言をいただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

2. ホームページのリニューアル

ホームページは、更新が疎かになっており大変申し訳ございません。数年前までホームページのデータは理学部のオリジナルサーバにおかれていたのですが、ホストコンピュータの更新に伴って行き場を失ってしまいました。しかし、理学部同窓会のホームページは七高時代の情報が充実していたため、当時の大学理事の判断で、現在まで学内（情報基盤統括センター）のサーバに置かせていただいております。近いうちにホームページの刷新と、民間のサーバにデータを置くように進めます。すでにドメインは取得しました。また、同窓会費をウェブ経由で納入してもらえるようなシステムの構築も、他の学部同窓会と歩調を合わせて検討して参ります。

3. 会員名簿の発行

現在、4年に一度の会員名簿の発行の準備を進めています。名簿会社（株式会社サラト）から問い合わせがございましたら、ご協力の程何卒よろしく願いいたします。



在りし日の翠園



現在の翠園跡地(上荒田町)

医学部同窓会

またもや書面会議

5月連休の新型コロナウイルス（以下コロナ）陽性者増を何とか乗り切り、6月は比較的少ない陽性者数で推移していたため、令和4年度の鶴陵会会報編集委員会は3年ぶりに7月6日に対面で開催し、特段の問題もなく終了できました。編集委員会と同様に役員会・評議員会も今年是对面での会議が可能ではないかと判断し、例年通り8月第4土曜日開催に向けて準備を進めていました。編集委員会の次週、夏休みを前にコロナの陽性者数が増加に転じ、8月18日はピークの4948人に達しました。開催日が近づき、参加者の動向が明らかになり、実出席予定者が執行部プラス数名で委任状が大部分であることが分かりました。会員は何らかの形で診療に従事しているため、第7波のピーク時に会合に参加することは抵抗が大きかったようです。委任状により会は成立しますが、資料を見て頂いた上で、承認を頂いた方が良いと考え、急遽、書面開催への変更の通知を行い、書面会議の準備を整えました。新型コロナウイルス陽性者数は8月24日で4843名、会議予定の8月27日で3656名を数え、書面会議への変更はやむを得なかったと考えております。会議の内容は議題1 議事録の承認、2 令和3年度鶴陵会一般会計・奨学金会計決算（案）及び令和4年度鶴陵会一般会計予算（案）、3 奨学金返済状況、4 令和3年度鶴陵会会務報告および令和4年度鶴陵会事業計画、5 鶴陵会会報第51号発行について、6 奨学金制度についての審議をお願いし、鹿児島大学の動き、大学教授人事、第116回国家試験結果、臨床研修関係、病院再開発・整備進捗状況、鹿児島大学同窓会連合会報告、鹿児島大学OBゴルフ大会について報告しました。幸い、議題については承認を頂きましたので、令和4年度も鶴陵会の活動を例年通り続けて参りたいと考えております。

（文責：医学部医学科同窓会鶴陵会 会長 高松 英夫）

保健学科同窓会

3年近く続くコロナ禍も終焉は見えない中でも徐々に「新しい生活」が日本でも進んできており、私の職場でも以前とは異なる雰囲気の中以前と同じような業務をこなしています。

私の職場は整形外科単科の病院ですが、以前より外傷でお越しになるご高齢の方が少し増えた印象です。自粛生活が続き生活活動範囲が狭くなり、交友関係も最小限となり、久しぶりに自宅のことや今までしていなかったことなどをした際に怪我をするパターンが多いように感じます。自粛生活で生活活動範囲が狭くなっていたのは、学生も同様でした。

学校と自宅の往復で、学校内でもあまり会話ができず、アルバイトや実習、外出さえもはばかれる中で学生時代を過ごした学生さんたちが当院に実習に来てくれます。彼らの特徴は実習を大変熱心に、真摯に、そして何より丁寧に時間を過ごしている印象でした。この3年、思い通りにいかない中、SNSやインターネット上での情報収集や友人とのコミュニケーションができたとしても、経験がどうしても不足してしまうため実習の機会を自然と大事に過ごしているように見受けられました。

あまり明るいようには見えない日本の情勢を感じてしまい暗い気持ちの私ですが、若者たちの前向きさに救われる今年度です。若者たちの背中を支える同窓会になれるよう、先輩も活動的になろうと決めた次第です。

（文責：保健学科同窓会理学療法学専攻部会 会長 宮崎 雅司）

歯学部の主な行事

歯学部同窓会にて行われた、令和4年4月以降の行事をお知らせいたします。

- 4月7日（木） 鹿児島大学入学式 挙行
- 4月9日（土） 新入生保護者説明会がZoomにて開催。同窓会から事業説明で参加
- 4月17日（日） 鹿児島大学OB・OGゴルフ大会開催 蒲生カントリークラブ
- 5月25日（水） 日歯参与会議 村上会長参加
- 6月15日（水） 教授会との協議会 歯学部にて対面開催
- 7月16日（土） 新潟大歯学部創立50周年記念式典 村上会長出席
- 7月23日（土） 令和4年度 第1回 評議員会開催 歯科医師会館にて、ハイブリッド形式
- 7月24日（日） 福岡歯科大創立50周年記念式典 村上会長出席
- 7月30日（土） 卒後研修会 第1回イブニングセミナー開催（Zoom開催）
- 8月20日（土） 大阪歯科大学同窓会100周年 村上会長、白山専務参加

令和4年度教授会との協議会の開催

6月15日（水）歯学部にて教授会との協議会を開催されました。教授会からは西村学部長をはじめ19名の教授、同窓会から村上会長はじめ役員、村口大学支部長、事務局の富田先生が出席しました。

西村学部長、村上会長より2年ぶりの対面会議の開催ができたことを喜び、今後もより一層の連携強化が必要であるとの挨拶の後、「南九州歯学会の開催について」「イブニングセミナーの講演依頼について」「5年生の白衣授与式に関して」など、活発な意見交換が行われました。



教授会との協議会



村上会長挨拶

2022年度前半の出来事

前報（鹿児島大学同窓会連合会報34号）に引き続き、工学部同窓会の名誉会員である稲盛和夫氏と岸園司氏に纏わる出来事について書きたいと思います。

去る2022年8月24日、稲盛和夫氏が京都のご自宅にて、老衰のため永眠されました。氏の偉業については繰り返すまでもございませんが、改めて、永きにわたる鹿児島大学及び工学部への厚いご支援に礼意を表すると共に、衷心より御冥福をお祈り申し上げます。加えて、宮城泰児工学部同窓会会長からの哀悼の言葉を以下に紹介いたします（工学部同窓会ホームページより転載）。

“鹿児島大学名誉博士稲盛和夫氏のご逝去に際し、鹿児島大学工学部同窓会として哀悼の意を表したいと存じます。鹿児島、鹿児島大学をこよなく愛され、本学にも多大な浄財を幾重にも寄付されたのはご承知の通りです。ご遺志をしっかりと受け止め、後世に伝え、継承していくことが私共後輩の務めだと考えます。最後に故人のことばを添え、ご冥福をお祈りしたいと存じます。「動機善なりや、私心なかりしか」”

一方、同窓会会員の功績を讃えるため、岸園司氏のご意志に基づき設立された「岸園賞」について、今年度は熊澤典良氏（先進工学科機械工学プログラム准教授）が受賞されました。熊澤氏は平成8年に鹿児島大学に着任され、工学部での教育・研究活動に従事されると共に、平成19年からは「ETロボコン」に参加する学生の課外活動を支援されています。学生の目標である全国大会出場ならびに入賞を実現するために、プログラミング等の指導に加え、講習会、試走会、地方大会にも引率として積極的に参加され、5度の全国大会出場と3度の入賞に大きく貢献されました。このような永きにわたる学生に寄り添った活動が、工学部および同窓会の名誉を高めるものとして表彰されました。心よりお祝い申し上げますとともに、今後の益々のご発展を祈念いたします。



コロナ禍による行動制限等は、夏頃より緩和の兆しを見せています。今年度の後半は、オンライン等の新しい手段も含め、各部会の活動が徐々に活発化することを願っております。

（文責：工学部同窓会庶務幹事 鷹野 敦）

農学部附属施設の近況について

農学部長 橋本 文雄

農学部には附属施設として附属農場、附属演習林、附属焼酎・発酵学教育研究センターの3つの施設があります。最近の取り組み事例をご紹介します。

初めに、附属農場・入来牧場において、令和3年8月に一般社団法人・日本草地畜産種子協会より「放牧畜産実践牧場認証」を取得し、加えて12月には「放牧畜産実践展示牧場」の承認を受けました。この認証制度は、日本草地畜産種子協会が制度化している認証制度で、この認証には放牧畜産の基準が定められ、放牧を広く普及推進するために、放牧を実践する生産者が順守すべきガイドラインが制定されています。入来牧場は「肉用牛繁殖経営」として申請しており「放牧畜産実践牧場」と表示することができるようになりました。この認証等を取得できたことで、今後は入来牧場における教育研究のみならず、畜産科学の教育研究分野においても大きな教育効果が期待されると考えています。

次に、附属高隈演習林において、一般社団法人・緑の循環認証会議・日本PEFC認証管理団体[Sustainable Green Ecosystem Council・PEFC National Governing Body in Japan]へ「SGEC FM認証（森林認証）」を申請し、令和4年3月に認証を取得しました。森林認証とは、「木材が、持続的に管理された森林から伐採されたものであることを証明する仕組み」であり、SGEC FM認証は日本国内状況に合わせて作られた、国際認証と相互承認を受けている国際的に認められた認証制度として、森林管理に関する環境、社会及び経済の分野を網羅した基準です。今回、SGEC FM認証を取得したことにより、鹿児島県内組織が管理している森林が認証を受けた最初の例となり、県内の森林認証取得の先行モデルとしてのその価値は大変高く、また、鹿児島大学が第4期中期目標・計画に掲げているSDGsの推進（15. 陸の豊かさを守ろう：森林の持続的な管理）の取り組み例でもあります。今後、高隈演習林から生産される木材（立木、丸太）は、国内外で求められている森林認証材として国際的にも流通させることが可能となりました。

附属焼酎・発酵学教育研究センターは、「酒類に係る教育、研究、地域貢献、産学連携及び国際交流等の各面にわたって広く協力し、社会にその成果を還元し、我が国の学術の発展、人材の育成に寄与すること」を目的として、新潟大学日本酒学センター及び山梨大学大学院総合研究部附属ワイン科学研究センターの3者の間で、令和3年9月30日に協定を結びました。この協定により、3大学間での酒類に係る教育・研究、交流・人材育成、地域貢献と産学連携、国内外の機関等との連携が可能となり、日本国内の酒造に係る人材育成が大きく進展することが期待されます。

最後に、令和4年4月1日より農林環境科学科内に「スマート農学コース」を新設しました。この教育コースは、令和4年4月の入学生から2年次の進級時のコース分けの際に選択できる既存のコース2つに加えて新設された「スマート農学コース」です。農学部は、これを契機に魅力ある地方大学・農学部の機能を強化するとして、農林畜産物の生産・流通・加工のバリューチェーン型教育カリキュラムを配置し、農林業のDXやグローバル化を推進するため、ドローン実習やIoTセンサーの活用等を含む農林畜産物ビッグデータを解析する知識集約型社会の構築に貢献でき、すなわち、デジタルと専門分野の教育を掛け合わせた実験・実習カリキュラムの高度化を図り、その取組の基盤となる教育設備等を行い、デジタル化が進む産業分野をけん引する高度な専門人材として、地方創生に向けた農林畜産業を志す人材を育成します。

鹿児島大学農学部としては、地域の総合大学である鹿児島大学の目標を達成すべく農学部としての役割にしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、鹿児島大学同窓会連合会の皆様方にもご協力と今後のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



農学部概要2022より

水産学部同窓会魚水会

魚水会全国理事会開催

令和4年(2022)11月12日(土)午後2時半より水産学部大会議室にて、魚水会全国理事会が開催されました。はじめに8月24日にお亡くなりになった稲盛和夫氏のご冥福を祈り、皆で1分間の黙祷をしました。次に顧問である、佐久間美明水産学部長から挨拶をいただき、開会しました。東京、大阪、神戸、四国、福岡、熊本など全国から各支部、各ブロックを代表した理事に集まっていただきました。

全国理事会は毎年、水産学部で開催されることになっています。今回の主な議題は今年6月3日(土)に開催される、『魚水会全国総会2023福岡大会』の各支部からの動員や広告問題などを打合せしました。活発な意見が出されて大変有意義な会議になりました。午後5時過ぎから近くの料理屋さんで懇親会を開催し、いろんな意見や交友を深めました。次の全国理事会は6月の総会前に開催したいと思っています。



鹿児島大学水産学部同窓会魚水会全国理事会



稲盛和夫氏のご冥福を祈り皆で黙祷

同窓会誌魚水第76号（令和5年新年号）編集委員会開催

令和4年(2022)10月14日(水)同窓会誌魚水第76号の第1回編集委員会が約2時間にわたり開催されました。編集委員には記事や編集が偏らないように学内、学外に限らず80代から女性委員7名、二十歳前後の学生委員5名を含めて29名がボランティアで頑張ってもらっています、今回から3年生の女子学生2人も入ってもらいました。住所が判っている入会金を納入している外国を含めて全会員や教職員はもちろん全学生に配布しています。現在交流のある大学関係や鹿児島大学本部や各学部などにも配布しています。

記事は日本国内にとどまらず外国や全国の会員や学生などから募集し、表紙も時々タイムリーな写真を採用しています。

2回目は令和4年(2022)11月25日(金)にて開催し、それから何度も校正を重ねて発刊にいたりしました。編集委員会に出席出来ない編集委員は事前に送付したゲラをチェックして返送してもらっています。

ボランティアでやっているのですが、まだまだ至らない所が有るかと思いますが、ご指導、ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。



始まる前に集合写真（鳥居先生のお子さんの子守をしながらでした）

※令和5年(2023)1月現在の編集委員は

学外編集委員 荒牧孝行(36増)、長友 統(39製)、黒木克宣(41製)、岩元善巳(46漁)、鬼丸久徳(47漁)、門脇秀策(49増、51院)、山岡耕作(49増)、本山興二(50経)、寺園俊英(51漁)、左近充浩一(53漁)、吉原芳文(55資)、田邊 修(57航)、田中安曇(H12漁)、赤塚麻美(H28食)

学内編集委員 上西由翁(57食・59院)、石川 学(H3化・H5院)、安樂和彦(H3漁)、小松正治(H3化・H5院)、鳥居享司(H8社)、横山佐一郎(H10化・H12院)、國師恵美子(H18資・H20院)、松岡 翠(H18資)

学生編集委員 八藤丸雅也(院2年)、今村和貴(院2年)、小笠原慶悟(院2年)、坂之上菜花(3年)新、中村涼夏(3年)新

事務局 辻口忠男(43経)、和合理恵子

(敬称略)

共同獣医学部紫友同窓会

令和4年度のここまでの活動等についてご報告します。

1. 評議員会

7月4日～13日の期間で書面会議として開催され、議題として、①役員改選、②令和3年度事業報告及び決算、③令和4年度事業計画及び予算（案）について、事前に配布した資料に基づき審議を願い、その可否を郵送で回答してもらった結果、全会一致で承認されました。報告事項として、①学部の現況、②同窓会連合会の活動も書面で報告されました。学部の現況については、曾於市の旧財部高校跡地に「動物福祉に配慮した畜産農場の先進的モデル」を整備し、この施設を利用してより規模の大きな参加型臨床実習の場を作ることの進捗状況と教員の動向が紹介されました。また、同窓会連合会の活動報告が議事録に基づいて説明されました。

2. 学生支援

学生の学外実習に伴う旅費等の経費の一部を同窓会が支援するという事業を始めて3年目になりました。学生が少しでも経費を心配せずに実習に集中できる環境づくりに役立っているようで、感謝の声が寄せられています。

3. 動物慰霊祭への供花

動物慰霊祭は、毎年10月に大勢の市民の皆様にも参加していただき動物慰霊碑の前で実施されてきましたが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の拡大予防の観点から学部教職員のみで実施されています。

今年も昨年同様の形式で10月31日に実施され、同窓会として生花を手向けて動物たちの霊を慰めました。



(参列者の焼香)

4. 会報8号の発刊

同窓会の会報である「紫友」の第8号を1月に発刊しました。この会報は会員相互の情報共有のツールとして活用してもらうことを目的に、年1回この時期に発刊しています。

▶特別寄稿◀

卒業してから55年 われらが「三八楠法会」

坪地 宏昌

(文理学部社会学科法学専攻 昭和42年卒)

東京・新宿。超高層ビルの窓越しに、すぎゆく春の夕陽に染まる雲を眺めながら、55年前われらが過ぎにし楽園「アルカディア」を旅立つ日に山肌を桜色に染めて送ってくれた桜島を思い浮かべる。

われらがクラス会「三八楠法会」についてはそれが楠葉とするならその根なり幹である学生時代のことからお話しをしなければならぬ。

私たちは、昭和38年（1963）4月に鹿児島大学文理学部社会学科に入学した。当時の大学進学率は12%、一世帯月平均の消費支出は4万円程度と、わが国がまだ貧しい時代であった。社会学科は80名（女子学生は2名）ほどで文理2組というクラスだった。定かではないが、当時の社会学科の入試合格ラインは医学部と同程度と言われていた。クラスメートの殆どは東大、京大、北大、九大など一期校をすべり、二期校の鹿大に入ってきた者であった。

私たちが文理学部に入った頃は第七高等学校が歴史を閉じてから13年しか経っておらず、七高の遺風が残っていた。教授陣には、上村行徳（独語）、大山彦一（社会学）、羽田重房（行政学）、岩元和秋（財政学）など七高OBで錚々たる先生方が文理学部で教鞭を執られていた。こうした先生方は授業が脱線すると、七高時代の思い出話をされた。先生方はコンパにも出席されると、「北辰斜めに」などを一緒に肩を組んで歌ったものだ。教室の木製の机の横板には「七高」の焼印が押され、机の上にはインク瓶やペンを置く掘り込みがあった。

2組には元気者が多く、60年安保後、休眠状態の教養部学生自治会の再建に中心的な役割を果たした。1年半の教養部時代には、鶴鳴荘や旧七高グラウンドなどでクラスコンパを開き、よく飲みかつよく論じ合った。

2年生の10月には、教養部から法学や経済学などの専攻に進学するが、専攻先は本人希望によって決められた。法学・経済学が概ね40名ほどずつに分かれた。この年の法学専攻への進学者が36名で、全て男子だった。概して熱く湿っぽい心の持ち主が多く集まったように思う。法学専攻は76単位の内、必修科目が50単位（経済学専攻は16単位）と多く、授業にきちんと出席するならば、友と机を並べる機会は多いというのが特徴だった。

従来から法学専攻生は、その意志に関わらず全員が法学研究会（法研）に加入することになっていた。そのため、法研の活動が法律学徒の学生生活の中で何程かを占めていた。法研の主な活動は、毎週土曜日午後1時に文理24号教室で開かれる市民を対象にした無料法律相談である。法律相談には、6名ずつで全員が順次当たった。アルバイトをしている者も都合をつけて当たってくれた。3年生の7月には4泊5日で、鹿屋市、都城市、志布志町において巡回無料法律相談を開催した。

九大、熊大などが参加する年2回の九州学生法律討論会にも積極的に参加した。

3年生秋には殆どの級友が、法研活動を通じて大学祭に参加した。市民・大学生・高校生1700人を対象にした「鹿児島市民憲法意識調査」を発表し各方面から高い評価を得た。また、部落問題をテーマに不法行為に基づく損害賠償事件を扱った模擬裁判劇「因習の鎖」の今日的社會問題と白熱した演技が見る人の心を打ち、2回の上演とも喝采を博した。

卒業を控えた昭和42年2月には、36名の級友中22名が参加して宮之城町湯田温泉「藤田荘」に4泊5日で宮之城無料法律相談と卒業旅行を兼ねて出掛けた。宮之城、佐志・山崎に相談所を開設した。4日目の朝、宿の2階の部屋に全員が集まり打合せをしていた時、その床全体が瞬時に落ちるというアクシデントがあった。若かったからか怪我もなく全員無事に着地した。落ちた床を皆で手際よく片づけたので宿の主人からお礼の焼酎が届き、その晩は修理された2階の床を思い切り踏んでのコンパとなった。湯田温泉から戻ってからのクラス会で、卒業後にクラス会「三八楠法会」を発足させることにし、会長の選出と関東・関西・北九州・鹿児島の支部組織等を決めた。

昭和42年（1967）3月18日は卒業式。同日発行の鹿児島大学新聞（百足樹）では「38年暮の教養自治会

再建を皮切りに、41年秋の大学祭高揚、等々本学学生運動の中核に常に居た38入学の皆さんを思う時、同期生として編集子はある種の感動なしには居られない。(梟)」と惜別の辞を贈ってくれた。

試験、代返、奨学金、苦学、クラス会、ボートレース、ソフトボール大会、下駄禁止、コンパ、アルバイト、生協食堂、夜泣きうどん、質屋・銭湯・床屋の学割、桜島登山、開聞岳登山、霧島縦走、妙円寺参り、磯の海水浴、城山逍遥、先生宅でのすき焼きパーティー、俳句の運座、ダンスパーティー、天文館での梯子酒、下宿での議論、賭けなしの徹マン等々は、歓喜、苦しみ、哀しみ、悩みの緋い交ぜとなった「楽園アルカディア」における過ぎにし4年の思い出であり、それは青春であり、美しきものであった。

志を果たして 何時の日にか帰らむ 山は青きふるさと 水は清きふるさと

36名は、各々の望とあこがれをいだきつつ、未知なる社会へ巣立っていった。

郭 熙

春山淡冶而如笑 夏山蒼翠而如滴

秋山明淨而如粧 冬山慘淡而如眠

春夏秋冬、自然は廻る。

○田の神の笑み柔らかに春の風 (級友・満園涼一君作、以下同)

○腰伸ばす度雲の峰田草取り

○黄雲の田を区切りたる曼殊沙華

○動くもの無き黄昏の冬田かな

各々の春夏秋冬が55回廻り、喜寿を超えた。哀しいかなこの間、早くも逝きし友は8名(合掌)。

三八楠法会の絆を支えてきたものは、郷愁と美しき青春の思い出を共有する友が、鹿児島、関西、関東の地において各々折に触れ顔を合わせ、集まり、酒を酌み交わし、互いの元気を確認し合い、励まし合ってきたことだ。近頃は、メールやLINEによる全国的な交流も盛んになった。コロナ禍前は登山や街歩き、句会なども行っていた。

全国に散った一同が集まるのは総会である。オリンピック開催の4年毎に鹿児島・関西・関東を輪番で廻った。最近では、開催サイクルを短縮し、コロナ禍前までに18回を数えた。この会の特徴は宿泊型であり、夫人や子供といった家族参加型であることだ。1984年の第5回総会には、なんと子供が37名も参加し、さながら小学校の遠足の賑わいだった。夫人同士も親しく交流を続けている。恩師の上村行徳・石神兼文・植村啓二郎の各先生から、法文学部教室において記念授業を家族で拝聴したこともあった。

富士山麓周遊、叡山参拝、霧島周遊、日光と川治温泉、知覧周遊、伊豆の天城越え、伊勢神宮参拝、佐多岬周遊、高野山参拝、屋久島登山、歌舞伎鑑賞、姫路城見物、東京での西郷の足跡と2020東京オリンピック施設見物等々、と総会の思い出は尽きない。卒業50周年総会では、高津孝法文学部長(当時)を交えて法文学部構内に七高所縁の学問の木「楷の木」の記念植樹を行った。

卒業文集としてスタートしたクラス誌「楠葉末」は、14号を数える。総会に参加できない友も寄稿文、近況報告を通して交流を深めることができるいわば「誌上総会」である。詩もあれば紀行文もありで形式は自由である。誌面を通してこれまで知らなかった友の一面を発見することもある。一人ひとりの20代から70代後半までの人生の航跡の記録でもあり、三八楠法会の歴史を綴ったわれらの共有財産でもある。創刊から14号までの「楠葉末」の総頁数は1136頁、延べ寄稿者数208名、総寄稿数225篇。全員が1篇以上は寄稿している全員参加のクラス誌だ。まさに「継続は力なり」である。

三八楠法会の36名の絆と55年の時の移ろいは、幾層もの思い出を積み重ね、その時々々に生への栄養を与えてくれてきている。われらは還暦から数えて“20歳の成人式”80歳を迎えようとしている。喜寿を超えた身体は、多少ガタがきているが、人生は百年時代。楽土エリジウムへの道はなお遠く、老け込んでいるわけにはいかない。われらに残された時間がどれほどあるのかは定かではないが、これからの三八楠法会が、われらの残照の青春なのである。

(協力 徳重 悟君・満園 涼一君)

令和4年5月15日記す。(文責・坪地 宏昌)

▶特別寄稿◀

先達に導かれ

園田 善孝
(教育学部 昭和42年卒業)

高校に入学したての頃、国語の授業に鮮烈な印象を受けた。新卒とおぼしきその教師は必ず古典や詩歌を誦んじてから授業をスタートされた。ある日のこと「汚れっちまった悲しみに…」の詠い出しに身が震えた。詩人「中原中也」との出遭いである。

教職に就いた時、ある教師と出遭った。初めての年賀状を貰って再び身の震えを覚えた。その教師の賀状は詩で構成されていたのである。二人の先達に導かれて私は詩歌の道に入っていった。ごく普通のノートに詩もどきの語句を並べて来たし、年賀状も55年間、詩一編を記し続けている。

人生の後半になり、生き方に若干の余裕も出てきた頃から、自分の詩が世間に通用するのか試してみたいという欲求に駆られた。いくつかの作品を南日本新聞社の新春文芸等に応募してみたところ、運よく選者の目に留まったらしい。掲載された。

延長線

人生は時間の累積、昨日の上に今日が在り
今日を超えて明日が生まれる

床につくと、まず考える
明日に向けてどんな線を引こう
どんな定規を使おう
積み上げを狙うなら直定規
上向き線か、下向きか、角度はどれくらい付けようか
大きく振りかぶって冒険するか
安全運転で確実路線か

試行錯誤を繰り返すなら
雲形定規も悪くない
小波、大波取り混ぜてやろう
決心がつかなければ
コンパス使って、ぐるぐる回り

波線は入れない方がいい、二重線も止めておこう
残り少ないこの時間、迷ってなんかいられない
太く、確かに、単線だけだ
それでも、それでも…遊び心をちょっときかせて
矢印くらいは入れてもいいか

準備が出来たらぐっすり眠り
夜明けを待てば、それでよい
(2018年 新春文芸 二席 三角みづ紀 選)

待つ

「今だ、綱引け」
松の木の見張り番から声が飛ぶ
村人は次々に渚に駆け寄り
かぎ状に張られた綱を引く
初漁の綱は重い
「待ち網漁」
奄美の村に古代から伝わる漁法
潮を見て、風を読んで綱を張り
じっと魚群が入るのを待つ
「果報は寝て待て」とでも言うかのように
海を汚すこともなく、獲りすぎることもなく
余計なエネルギーを使うこともない
それでも人々は食べるに困らない獲物を得てきた
それに比べ、私たちはどうだ
ひたすら成長を追い、他者よりも先んずることを願ひ
限りなく知略を廻らす世の中で
ずっと底辺を、喘いで生きて来た
どちらが真に英知ある人間の姿なのか
いくら世の流れが変わろうとも
ただ「待つ」ことに徹してきた人々
村ではこれからも「待ち網漁」と共に
「待つ」ことを基本にした営みが
営々と受け継がれていく
(2014年 新春文芸 二席 長谷川龍生 選)

先述の高校の恩師も詩の年賀状の教師も奇しくも同じ大学の先輩であった。(法文学部と教育学部)長谷川龍生氏と三角みづ紀氏は前と現在の「南日詩壇」の選者である。これらの先達の諸氏に導かれながら私は詩を書き続けている。作品は他者の目を通してこそ更なる命が吹き込まれると思ひ、これからも鉛筆を握る。

卒業生によるキャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2022！」

日時 2022年12月3日(土) 14:00~16:30
オンライン (Zoom) 開催

【ゲストスピーカーの皆さん】

木村 健介 氏 2009年 法文学部卒業／三井物産(株) ブランド・リテール事業部
安部 輝 氏 2021年 農林水産学研究科修了／双日(株) 財務部為替証券課
永野 花歩 氏 2021年 理工学研究科修了／日本アイ・ビー・エム(株) 金融サービス事業部
國料 大夢 氏 2021年 法文学部卒業／(株) キーエンス メトロロジ事業部

2022年12月3日(土)、キャリア支援セミナー「きばいやんせ、鹿大生2022！」(主催：鹿児島大学キャリア形成支援センター、協力：鹿児島大学同窓会連合会)が開催されました。8回目となる今回は前回同様、Zoomによるオンライン方式で実施され、ゲスト(先輩)スピーカーである卒業生4人と、99人の在学生が参加いたしました。

冒頭では、枚田キャリア形成支援センター長による開会のことばに続き、佐野輝学長からビデオメッセージで、本セミナーの立ち上げの経緯や過去のセミナーにおける参加者の反響について述べられるとともに、「本セミナーでゲストスピーカーの熱い思いに触れることで、参加学生及び教職員にとって貴重な機会となることを期待します」との挨拶がありました。引き続き、枚田キャリア形成支援センター長からゲスト4名の紹介がありました。

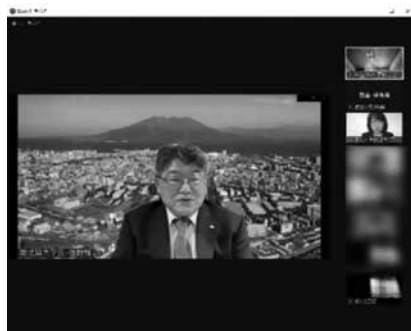
第1部では、木村健介氏の司会進行で全体セッション1が行われ、各ゲストから自己紹介を兼ねて学生時代の活動や現在の仕事内容などについての紹介がありました。

第2部では、ゲストごとに3つのブレイクアウトルームに分かれて、座談会形式のグループセッションが25分ごとの2交替で行われました。グループセッションは、参加学生とゲストスピーカーとの質疑応答形式で行われ、「社会人になるための心構え」、「学生時代の時間管理方法や失敗談」、「コロナ禍での就職活動」、「ストレス解消法」、「就職活動について」等、持ち時間を最大限に利用して活発な交流が行われました。

第3部の全体セッション2は再び木村健介氏の進行で行われ、各ゲストから本セミナーの感想や、参加学生に向け、失敗してもやりたいことに思いき切り挑戦し、これからの学生生活を充実させていただきたい等のアドバイスや応援メッセージが述べられました。

その後、安部輝氏と永野花歩氏に対して枚田キャリア形成支援センター長の代読により「鹿児島大学名誉キャリアサポーター」の委嘱が行われ(木村氏と國料氏には、昨年の本セミナーで委嘱済み)、ゲストスピーカーへの謝辞とともに参加学生に対して、「本セミナーで学んだことや先輩方との交流を今後活かしてほしい」との挨拶がありました。

最後に、同窓会連合会の富永茂人会長から、4人のゲストスピーカーへ感謝の言葉と、「今後のお仕事のご発展をお祈りいたします」という応援の言葉が述べられ、参加学生に対しては、「本セミナーで学んだことを活かして今後の学生生活を豊かで充実したものにしていただきたい。今回学んだことを卒業後の活動にも繋げていただき、就職後は是非本セミナーにゲストとして参加いただくことを期待します」との挨拶があり、本セミナーを締めくくりました。(文責 同窓会連合会事務局)



「きばいやんせ、鹿大生2022！」のオンライン (Zoom) 画面 (左=佐野学長の挨拶、右=参加者)

令和4年度 鹿児島大学同窓会連合会総会を開催

令和4年7月30日(土)、鹿児島大学共通教育棟1号館111号教室において、令和4年度鹿児島大学同窓会連合会総会が開催されました。

「新型コロナウイルス感染症」のパンデミックにより令和2年度及び令和3年度の総会は書面会議で実施し、懇親会は開催していませんでしたが、令和4年1月13日(木)開催の令和3年度第2回役員会において、令和4年度の総会は開催方式を検討すること、懇親会は中止することとしました。

その後、令和4年5月20日(金)開催の令和4年度第1回役員会において、総会は新型コロナウイルスの感染対策を十分に行ない対面方式で開催することが決定され、今回は約3年ぶりに対面方式での総会開催となりました。

総会には約40名が参加し、富永茂人同窓会連合会会長及び佐野輝鹿児島大学長より挨拶の後、令和3年度事業報告・収支決算・監査報告、令和4年度事業計画・収支予算について協議が行われ、全て承認されました。

協議終了後、「一鹿大の現状報告—学長就任後の3年間を振り返って」と題して、佐野輝鹿児島大学長の講演が行われ、大学の様々な取り組みや現状等について、資料を用いて詳細な説明がありました。

<総会協議事項>

- 1 開会のあいさつ
- 2 鹿児島大学同窓会連合会長のあいさつ 富永茂人 会長
- 3 鹿児島大学長のあいさつ 佐野 輝 学長
- 4 協議
 - 1) 令和3年度事業報告(案)
 - 2) 令和3年度収支決算(案)
 - 3) 令和3年度監査報告
 - 4) 令和4年度事業計画(案)
 - 5) 令和4年度収支予算(案)
- 5 鹿児島大学学長講演
- 6 閉会のあいさつ

< 総会の様子 >



総会の模様



挨拶をする富永会長



資料の説明をする久保代表幹事



講演を行う佐野学長

令和3年度一般会計決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和4年3月31日現在
(単位：円)

収入の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
繰越金	867,058	867,058	0	
学部別同窓会分担金	900,000	900,000	0	
総会・懇親会費	0	0	0	総会(書面会議で開催)・懇親会(中止)
OBゴルフ大会協力金	50,000	0	▲ 50,000	令和3年度OB・OGゴルフ大会(中止)
雑収入	5	9	4	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合 計	1,817,063	1,767,067	▲ 49,996	

支出の部

項目	予算額 (A)	決算額 (B)	増減 (B) - (A)	備考
会議費	120,000	3,051	▲ 116,949	第2回役員会(その他の役員会・幹事会は全てメール会議形式で開催)
総会・懇親会費	0	0	0	総会(書面会議で開催)・懇親会(中止)
印刷費	400,000	391,424	▲ 8,576	会報32号、33号(支部分含む。)
事務費	備品費	10,000	▲ 10,000	
	通信運搬費	30,000	▲ 7,492	郵送料、振込手数料
	消耗品など	10,000	▲ 10,000	
旅費	130,000	0	▲ 130,000	福岡支部総会(中止)・関東支部総会(延期)
雑費	10,000	1,100	▲ 8,900	残高証明手数料
慶弔費	30,000	0	▲ 30,000	
予備費	1,077,063	0	▲ 1,077,063	
合 計	1,817,063	418,083	▲ 1,398,980	

次年度繰越金：1,767,067 - 418,083 = 1,348,984円

令和3年度定期貯金決算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

通帳(郵便定期)	400,000
郵便定期貯金利息	200
合 計	400,200

令和4年度一般会計予算書(案)

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

(単位：円)

収入の部

項目	前期決算額(A)	予算額(B)	増減(B) - (A)	備考
繰越金	867,058	1,348,984	481,926	令和3年度繰越金
学部別同窓会分担金	900,000	900,000	0	振込手数料は振込者負担
総会・懇親会費	0	0	0	懇親会は中止
OB・OGゴルフ大会協力金	0	50,000	50,000	
雑収入	9	5	▲4	利子
繰入金	0	0	0	
寄付金	0	0	0	
合計	1,767,067	2,298,989	531,922	

支出の部

項目	前期決算額(A)	決算額(B)	増減(B) - (A)	備考	
会議費	3,051	120,000	116,949	役員会・幹事会	
総会・懇親会費	0	50,000	50,000	会場借用料など。懇親会は中止	
印刷費	391,424	400,000	8,576	会報34号、35号(支部分含む。)	
事務費	備品費	0	10,000	10,000	
	通信運搬費	22,508	30,000	7,492	郵送料、DM便発送料、振込手数料
	消耗品など	0	10,000	10,000	コピー用紙など
旅費	0	130,000	130,000	福岡支部総会【毎年開催】・関東支部総会【3年毎開催(昨年度延期分)】(会長)	
雑費	1,100	10,000	8,900		
慶弔費	0	30,000	30,000		
鹿児島大学への寄付	0	1,000,000	1,000,000	鹿大「進取の精神」支援基金への寄附	
予備費	0	508,989	508,989		
合計	418,083	2,298,989	1,880,906		

令和4年度定期貯金予算書

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

通帳(郵便定期)	400,200
郵便定期貯金利息	200
合計	400,400

第42回鹿児島大学OB・OGゴルフ大会の開催

全国総合大学でも珍しい恒例の全学部鹿児島大学OB・OGゴルフ大会は2年連続コロナ感染症の為に中止されましたが、昨年、令和4年(2022)4月17日(日)感染対策を十分にして全国のOB・OGが参加して開催されました。優勝は26年振りに水産学部が優勝しました。

この大会は第1回より鹿児島大学長が会長になり鹿児島大学の大きなイベントの一つです。全国からたくさんの同窓生のご参加をお待ちしています。

記

日 時：令和5年(2023)4月16日(日)

場 所：鹿児島蒲生カントリークラブ (0995-52-0381)

(セルフプレー又はキャディ付OK。各学部実行委員までお問合せ)

予定参加人数：300名

その他：令和5年1月17日付け南日本新聞紙上から数回掲載予定。

学部別実行委員

水産学部：TEL 099-286-4080 FAX 099-286-4080 (鬼丸)

農学部：TEL 099-282-2266 FAX 099-282-2266 (平)

共同獣医学部：TEL 099-254-7947 FAX 099-254-7947 (鶴田)

医学部：TEL 099-812-1133 FAX 099-812-1677 (上野)

法文・理学部：TEL 099-254-7111 FAX 099-254-7101 (青木)

教育学部：TEL 099-296-9602 FAX 099-296-9603 (児玉)

歯学部：TEL 099-286-6480 FAX 099-286-4484 (濱崎)

工学部：TEL 099-285-7032 FAX 099-285-7032 (淵田)

本部職員：TEL 099-285-7715 FAX 099-285-7721 (西元)

◎同窓会連合会事務局 (鹿大総務部総務課基金・渉外係)

TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854 (上原・田島) (平日8:30～17:15)

Email kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

同窓会連合会のホームページもご覧ください。 <https://www.kagoshima-u.ac.jp/rengoukai/>

※この大会は42年前の第1回大会から毎年、参加者の参加費から母校の鹿児島大学へ賛助金を贈り続けて学生を支援しています。



鹿児島・蒲生カントリークラブ 桜島コース1番ホール



(大会実行委員会)

鹿児島大学同窓会連合会事務局並びに各学部同窓会の連絡先

鹿児島大学同窓会連合会事務局

〒890-8580
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学歯学部同窓会

〒890-8544
鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学歯学部内
鹿児島大学歯学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-264-1600
e-mail kashidousou@po2.synapes.ne.jp

鹿児島大学法文学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-30
鹿児島大学法文学部同窓会事務局
TEL 099-250-3211 FAX 099-285-3573
e-mail dousoukai@leh.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学工学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-40
鹿児島大学工学部同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3494
e-mail kadai.eng.dousoukai@gmail.com

鹿児島大学教育学部同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
鹿児島大学教育学部事務局内
TEL・FAX 099-285-7718
e-mail dousou@edu.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学農学部あらた同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学農学部あらた同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-8537
e-mail aratakai@mc2.seikyoku.ne.jp

鹿児島大学理学部同窓会南明会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-35
鹿児島大学理学部同窓会事務局
TEL 099-285-8925
e-mail dosokai@sci.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学水産学部同窓会魚水会

〒890-0056
鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部同窓会魚水会事務局
TEL・FAX 099-286-4080
e-mail gyosui@fish.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学医学部同窓会

〒890-0075
鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部医学科同窓会鶴陵会事務局
TEL 099-275-6881 FAX 099-265-9784
e-mail kakuryo@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学共同獣医学部紫友同窓会事務局
TEL・FAX 099-285-3538/8711 (FAX 兼用)
e-mail k2088185@kadai.jp

鹿児島大学 同窓会連合会

〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学総務部総務課広報・渉外室基金・渉外係
TEL 099-285-3101 FAX 099-285-3854
e-mail kikin-sg@kuas.kagoshima-u.ac.jp

印刷 株式会社鹿児島新生社印刷
〒891-0132 鹿児島市七ツ島1-3-21
TEL 099-261-0111 FAX 099-261-3100
e-mail kagoshima@shinsei-p.co.jp

